

## 第4章 奥羽本線（天童～米沢）

2019年10月2日（水）から5泊6日での東北の旅は、次のプランで実施。前半の三日間は、単独で奥羽本線の天童から米沢までの鉄道つたい歩き（営業キロ60.3km）を楽しむ。そして、後半の三日間は一関で家内と合流して、平泉、気仙沼、松島の観光に費やす。今回も天や神のご加護を得て、お蔭様で当初の予定をクリアできる。これで通算営業キロは1万526km（活動日数518日）となる。なお、1万500km越えは山形駅（蔵王方面からの歩き）でクリアする。続く・・・。



### 第1節 旅プラン（天童～米沢）60.3 km

○10月2日（水）晴れ

南林間 5:37 → 新宿 6:20

新宿 6:36 → 大宮 7:15

やまびこ123号 大宮 7:34 → 天童 10:21

天童～天童南～高掬（たかたま）～漆山～南出羽～羽前千歳～北山形～山形（13.3 km）

東横イン山形泊（207号室） 023-644-1045



○10月3日(木)曇り

山形 7:41 → 中川 8:03

中川～羽前中山～かみのやま温泉～茂吉記念館前～蔵王～山形 (22.7km)

東横イン山形泊

○10月4日(金)晴れ/雨

山形 7:11 → 中川 7:34

中川～赤湯～高島～置賜(おいたま)～米沢 (24.3 km)

東横イン米沢泊(315号室) 0238-22-2045



○10月5日(土)曇り

つばさ132号 米沢 9:37 → 福島 10:12

やまびこ 45 号 福島 11:14 → 一関 12:14

一関 12:28 → 平泉 12:36

平泉中尊寺参道の散策

平泉 15:27 → 一関 15:35

蔵ホテル一関泊 (508 号室) 0191-31-1111



○10月6日(日)曇り

一関 9:09 気仙沼 10:34

復興されつつある気仙沼海岸の観光

気仙沼 14:21 → 一関 15:40

はやぶさ 110 号 一関 16:48 → 仙台 17:19

東横イン仙台駅西口中央泊 (720 号室) 022-726-1045



○10月7日（月）曇り

仙台 8:15 → 松島海岸 8:55

日本三景松島湾一周

松島海岸 11:42 → 仙台 12:20

やまびこ 142号 仙台 13:44 → 大宮 15:22

## 第2節 1日目：2019年10月2日（水）：天童～山形 快晴



往路の切符の一例、やまびこ 123号（大宮駅）



天童駅

2019年10月2日（水）から始まる東北地方旅行の第1弾は、福島・山形・秋田・青森を走る奥羽本線のうち、天童～山形（営業キロ13.3km）に挑戦する。日差しは季節外れの30℃近い温度となり、一時は恰も真夏のウォーキングのような錯覚もした。山形県への足の踏み入れは、生まれて初めてであったのでワクワクドキドキする。将棋の駒づくりで有名な”天童”は、毎年将棋の日にNHKで放映されるので印象深いものがあった。街の至る所に将棋の画像をみることができた。また、最上義光歴史館は、昭和62年NHK大河ドラマで放映された”独眼竜政宗”などを通じて少しは知識があったので興味深いものがあった。更に、「山形は鋳物発祥の地」とのことで勉強させて頂いた。単線のため止むを得ないかも知れないが、新幹線でありながら、対向電車の待ち合わせがあるのにはビックリ。



天童駅前（ポストの上に王将）、山形県の地酒”出羽桜”



天童南駅、蕎麦屋”あきばや”での蕎麦（印象に残る美味しい美味しい蕎麦であった）



高掬駅、漆山駅、ひょうたん作品を製作中



南出羽駅、特急のような新幹線

一方、奥羽本線（福島～新庄）のレールと仙山線（山形～仙台）のレールの幅が違うのを改めて確認した。日本の鉄道の主なレールの幅は、広いレール（標準軌：143.5m）、狭いレール（狭軌：106.7m）、中間レール（変則標準軌：137.2m）と3種類あることを、1年位前ある鉄道会社の職員さんに教えて頂いたことがある。広いレールは新幹線、京急、京成、銀座線、丸ノ内線、大江戸線、浅草線などで。狭いレールは、JR 在来線、小田急、東急、東武、西武、その他の東京メトロなどで。そして中間レールは、京王、都営新宿線、都電荒川線、東急世田谷線などで使用しているとのことであった。



健康の森公園に面した山形県立保健医療大学、仙山線と奥羽本線、羽前千歳駅（仙山線が合流）

それ故、「今回の福島～天童までのレールがどうのようになっているか」を興味深々で臨む。「かつて箱根登山鉄道のように3本のレールかなあ」と思っていたが、NGであった。山形新幹線の開通に併せて、レールが広い幅に変更されていることを確認した。線路の幅の違いを山形駅、そして仙山線と奥羽本線が合流する羽前千歳駅界隈で肉眼にて確認でき嬉しい限りだ。

本日の鉄道つたい歩きの状況は、次の通りで、全ての駅舎立ち寄りに成功する。

天童（10:26）～天童南（11:25）～高掬（たかたま/12:21）～漆山（13:17）～南出羽（13:48）～羽前千歳（14:41）～北山形（15:45）～山形（16:46）



茶瓶（山形鑄物発祥の地）、北山形駅（左沢線が合流）



最上義光歴史館、駒姫と最上義光、リスの石像



山形駅東口、山形駅西口

駅舎立ち寄りの記録をメモすると次の通り。

南林間 5 時 37 分の急行、新宿 6 時 32 分発行きの快速を乗り継いで大宮駅へ（7 時 34 分到着）。大宮から 17 両編成（11 号～17 号：新庄行き）のやまびこ 123 号で天童に向かう。福島から天童までの光景は生まれて初めてであったので、ワクワクドキドキする。単線のため、途中上り新幹線の待ち合わせがあったが、どこの駅か分からず。天童から米沢まで歩いて、中川駅または南出羽駅かも知れないと察知する。天童駅には 10 時 21 分到着。駅構内は賑やかでお土産屋もあった。土産のキーワードで地震直前歩いた飴を買った浪江駅を思い出した。当時、浪江から富岡までの歩きを通じて常磐線を踏破したことを。駅前の郵便箱の王将が印象深い。また、マンホールの蓋にも将棋が刻まれていた。駅前をデジカメに収めて、天童南駅に向けてスタートする。浪江と同様、幹線道路に沿った遊歩道を暫く歩く。10 時 38 分。きらやか銀行前を通過。その先に朝日生命があった。10 時 41 分、王将と記した排水弁の蓋を通過。今歩いている遊歩道は、“グリーンモール天童”とあった。10 時 43 分、青年の家前バス停（山交バス）を通過。左手には出羽桜の旗があった。10 時 58 分、出羽桜酒造前を通過。11 時 3 分の交差点で 500 m 位無駄な歩きをする。11 時 17 分、天童南駅の案内板を見つける。この駅の傍で定期バスが停車していた。駅は鉄道下を潜った先に、天童南駅（11 時 25 分）あった。駅前はゆったりした空間が広がっていた。近くからイオンも見えた。

11 時 40 分、芳賀（はが）バス停前を通過。11 時 47 分、手打そば“あきばや”に入る。780 円の手打そばの味は印象に残るものがあった。機会があれば、是非食べたいものだ。12 時 21 分、高揃（たかたま）駅に到着。12 時 25 分、鳥居道踏切を横切り、鉄道の左側となる。JR 在来線に比べ、広い線路であることを確認する。12 時 32 分、線路に沿って春のように沢山の花が咲いていた。12 時 46 分、万歩計で 114 歩ある天山橋（立谷川）を渡る。13 時、リンゴ園前を通過。辺りには間もなく収穫期を迎える稲穂の田があった。13 時 12 分、漆山踏切を横切り、鉄道の右側となる。13 時 17 分、漆山駅に



到着する。稲が熟した田園地帯を歩く。13時36分、瓢箪を干した場所を通過。13時41分、JR下を潜り、鉄道の左側となり、概ね鉄道に沿って歩く。13時48分、健康の森公園に面した南出羽駅に到着する。長いホームが続いていた。鉄道に沿った公園を歩く。500m位歩くと行き止まりとなり、斜面を上り、公園内のメイン通り出る。13時59分、新幹線とも対面する。少し不安になったので、公園内で出会った人に「真っ直ぐ歩いて、通り抜けられますか」とお伺いする。「真っ直ぐ歩くと山形県立保健医療大学の方に行き遠回りになります。左折した道筋の方が近道です」と。御礼を行って、指示があった道筋に切り替える。公園内には子供の広場もあった。14時11分、公園に面した山形県立保健医療大学を通過し、幹線道路に出る。14時21分、仙山線の線路にぶつかる。遊歩道のある地下道を経由し、14時23分仙山線を渡る。仙山線に沿って歩く。34歩ある下青柳橋（野呂川）を渡る。14時36分、仙山線と奥羽本線がある青柳踏切を横切り、鉄道の右側となる。両線の線路の幅が違うことを肉眼で確認する。14時41分、羽前千歳駅に到着する。この駅から山形駅まで、単線にて仙山線と奥羽本線が並走する。



山力、鳥とカエル

14時59分、第1落合地下歩道を経由し、鉄道の左側となる。鉄道に沿って歩く。15時12分、155歩ある千歳橋（馬見ヶ崎川）を渡る。15時21分、千歳橋バス停前を通過。15時22分、茶瓶がある山形鋳物発祥の地前を通過。左沢線が合流する北山形駅に15時45分到着する。この駅には、高校生などの沢山の若者の姿があった。この駅は、奥羽本線、仙山線、左沢線が合流するので、時刻表のダイヤもニギニギしかった。ここから山形市内の散策となる。16時4分、大手町という地名を通過。その先に豊烈神社例大祭（10月6日開催）のポスターがあった。16時12分、最上義光歴史館に立ち寄る。駒姫と一緒に人形が目に入る。ここで15分位観賞する。16時30分、豊烈神社前を通過。16時35分、NHK前を通過。近くにはリスやフクロウなどの石像があった。16時37分、共栄火災前を通過。16時46分、山形駅東口に到着。駅の通路を経由し、西口にあ

る東横インを目指す。17時2分、ホテル（207号室）に到着。本日の営業キロは13.3 km、万歩計で19,017歩であった。



マスターと腕のいい板前さん

夜は、東横インの紹介で居酒屋”山力”にお邪魔し、板前さんの凄腕を見せて頂く。同時にこの店の常連である吾妻氏と知り合い、地酒と郷土料理を頂きながら色々世間話をさせて頂く。山形県の魅力を一杯感じる酒場であった。同時に収穫の多い一日であった。天や神に感謝あるのみ。



吾妻氏と乾杯

<その2> 中川～山形



山形駅、狭い線路（仙山線）と  
広い線路（奥羽本線）



山形駅、寒河江行（左沢線）、中川駅

### 第3節 2日目：10月3日（木）：中川～山形 曇り

2019年10月3日（木）、奥羽本線の中川から山形までの営業キロ22.7kmに挑戦する。昨日に比べ曇り空のため、終日いいコンディションの下で楽しむことができる。本日も次の通り、全ての駅舎立ち寄りに成功する。中川（8:05）～羽前中山（9:16）～かみのやま温泉（11:46）～茂吉記念館前（13:30）～蔵王（15:27）～山形（17:12）



中川駅、羽前中山駅への路



羽前中山駅、大きな岩、高松踏切



収穫まじかな稲、春のような花壇、かみのやま温泉駅

本日の歩きは、中川から羽前中山までは順調に歩くことができる。羽前中山からかみのやま温泉への道筋は少し手こずる。しかし、沿線には黄金色に熟した稲穂が随所にある、「少年老い易く学成り難し」を強く感じながら、故郷香川での幼少時代を思い出す機会を得る。上山市は想定外に賑やかな街並みであった。丁度昼時であったので、「らーめん”花や亭”」に立ち寄る。ここで、私と同級生の客人・女将さんに知り合い、ウォーキングを中心とする世間話をする機会が得られ感謝感激。この店で1時間位滞在する。



齋藤茂吉記念館、茂吉記念館前駅、北杜夫氏



齋藤茂吉氏の像、龍王橋

茂吉記念館前駅は小高い丘の中にあり、地元の人々の応援で何とかクリアできる。この駅は齋藤茂吉記念館がある公園を下った先にあった。それにしても分かりにくいところにあった。恐らく茂吉記念館ができたのに合わせて開設したのではないかと推察。いい機会であったので、齋藤茂吉記念館にも立ち寄らせて頂く。茂吉氏ご子息（北杜夫氏）の写真も掲載されていた。夏目漱石、森鷗外、伊藤左千夫などの著名な文学者の関係図を展示されていた。ここでも「類は友を呼ぶ」を痛感。このような記念館への立ち寄り、

ウォーキングを通じ、3度目となった。一度目は京王線の武者小路実篤館、二度目は近鉄線の司馬遼太郎館。いい勉強をさせて頂いた。



蔵王駅、鉄道を横切る、みどり生命の主力商品名と同じ”はなみずき”登場

茂吉記念館前駅から蔵王駅への道筋は、迷いに迷いながらのウォーキングになる。ナビで修復を試みるが上手く作動せず。これまでの第六感と地元の人々の応援で何とか蔵王駅に到着できる。蔵王駅から山形駅までは自力で辿りつける。

本日の中川から山形までの歩きをメモすると次の通り。

朝ゆっくりホテルで朝食をとり、山形駅発7時41分の電車で中川駅に向かう。山形駅では、仙山線と奥羽本線の線路の違いを確認する。後部車両の電車は高校生で満員の状況であった。しかし、かみのやま温泉駅で高校生が下車し、がらがらの状況となる。中川駅には8時3分到着。中川駅を種々のアングルから撮影し、羽前中山駅に向けてスタート。8時15分、県道102号（南陽川西線）南陽市小岩沢を通過。8時20分、上り新幹線と対面する。今度は8時34分、下り新幹線が通過して行く。9時4分、上山市立中山小学校看板前を通過。9時5分、白髭神社前を通過。9時16分、本日最初の駅舎立ち寄り羽前中山駅に到着する。9時20分頃から山登りが始まる。右手にはJR線のトンネルがあった。9時23分、国道13号線に合流する。9時26分、山形20km、新庄82km、秋田234kmの看板を目にする。9時30分、掛入石前を通過。右手に鉄道を見て歩く、9時46分、63歩ある川口橋で曇り空から薄日がさして来る。9時57分、国道13号を下りて一般道に出る。10時8分、藤吾踏切を横切り、鉄道の右側となる。この辺りの鉄道は複線であった。10時13分、柿が熟しつつある道筋を通過。

しかし、ここからかみのやま温泉駅遠し。10時25分、JAやまがた米前を通過。10時41分、田圃道を歩き行き止まりとなる。田圃にいたご婦人に聞き、かみのやま温泉駅への道筋をお伺いする。「踏切を渡って歩きをした方が分かりと思います」と聞き、10時51分、石曾根踏切を横切り鉄道の左側となる。10時55分、右手に下り新幹線が通過して行く。その先で赤屋根が見えるが川で行き止まりとなった地点が右手にあった。

辺りは、刈り入れが始まった田があった。11時6分、高松踏切を横切り、鉄道の右側となる。11時12分、カラフルな花壇前を通過。その先に三本松地区公民館という看板があり。偶然にも故郷香川に縁のある名称（高松、三本松）と巡り合える。ここでも「人生って不思議なものですな」を痛感した。その先で国道13号線に合流する。11時19分、上山市立南中学校前を通過。11時26分、上山七福神円通寺寿老尊前を通過。11時34分、蔵王食品（株）前を通過。11時37分、上の山踏切を横切り、鉄道の左側となる。11時41分、黄金山神社の境内を通過。11時46分、やっと「かみのやま温泉駅」に到着する。駅前には、かみのやま温泉と高松葉山温泉行のバス停があった。駅から上山城（11時55分）が一望できた。駅前で食事をしようとするが、見当たらず、暫く歩いた先で“花や亭”というラーメン屋があり入る。私と同級生という後藤さん、花屋さんがおり（二人とも上山市在住）、1時間位色な話で盛り上がる。12時41分、この店を後にする。



らーめん”花や亭”でのひと時

この店を出るや、雨がポツリと感じるが、曇り空のままで継続する。12時48分、川を渡る。鉄道を右手にして歩く。12時59分、旭町バス停前を通過。13時9分、上山市弁天という道路標識前を通過。13時13分、みゆき会病院前を通過。茂吉記念館公園を經由し、茂吉記念館駅には13時30分到着。この駅は森の中にあり、分りにくいところにあった。折角だから、入館料600円を払い、茂吉記念館に入り、作品や人脈などを勉強させて頂く。有意義な時間を30分位過ごさせて頂く。14時5分、龍王橋を渡る。ここから蔵王駅への道筋は迷路となる。14時11分、金瓶南バス停前を通過。この界限でナビを観て、迷路に突入する。高速道路や川が前方を塞がり、思うように進まず。道筋でお会いした方に聞き、やっと企業団地に到達する。ここで、蔵王駅への道筋をお伺いし、迷路から抜け出す。「真っ直ぐ歩いた先に、左手に曲がる交差点があります。その交差点を左折してください」と教えて頂く。交差点に突入し、この交差点が教えて頂いた交差点かどうか半信半疑であったので、偶然にも郵便局員にあったので確認する。そ

の結果、今いる交差点を真っ直ぐ行った先で鉄道に突き当たり、その鉄道をつたい歩きしたところに「蔵王駅」があるとのことであった。14時51分、132歩ある福田橋を渡る。15時2分、JR線にぶつかる。15時9分、羽州街道黒澤一里塚跡を通過。15時13分、南山形公民館前バス停前を通過。15時27分、迷いに迷って蔵王駅に到着する。

15時34分、蔵王駅口バス停前を通過。15時41分、東北文教大学口バス停前を通過。15時50分、無量寿前を通過。15時55分、雨は本降りとなる。15時58分、95歩ある常盤橋（須川）を渡る。16時6分、坂巻跨線橋を渡り、鉄道の左側となる。16時11分、49歩ある二ツ橋（竜山川）を渡る。16時26分、大川橋を渡る。16時30分、雨上がる。16時37分、ケアセンターはなみずき前を通過。16時45分、籠田バス停前を通過。17時12分、山形駅西口に到着。本日の営業キロは22.7km、万歩計は31,511歩であった。ホテル界隈の頭上での鳥の群れが印象に残る。

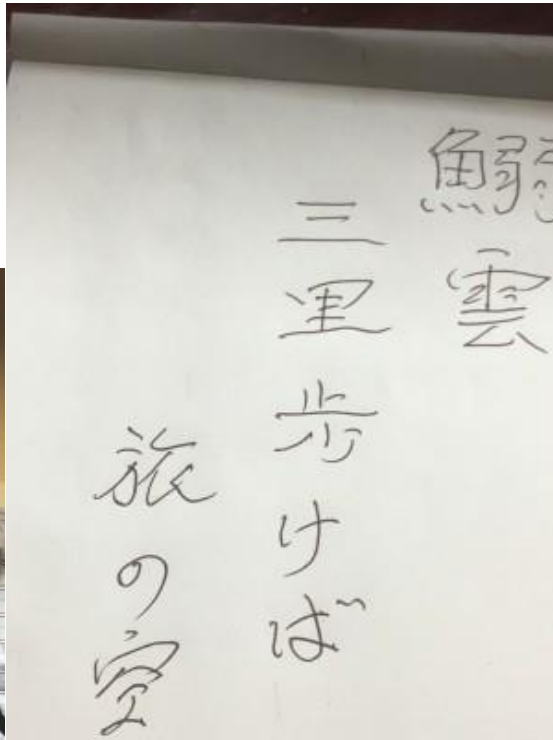


山形駅西口

夜は本日の疲れを癒すために昨日お邪魔した食事処”山力”に立ち寄る。本日も東横インから紹介を受けたという旅人（苫小牧在住、徳山在住）と知り合い、趣味を中心とする話題で盛り上がる。天や神に感謝あるのみ。



苦小牧在住の詩人！！  
泥舟氏と語り合う



<その3> 中川～米沢



山形駅、奥羽本線と仙山線



中川駅、米沢駅を目指して

#### 第4節 3日目：10月4日（金）：中川～米沢 晴れ／雨

2019年10月4日（金）、午前中は好天、午後は雨の中、奥羽本線の中川から米沢までの営業キロ24.3kmに挑戦する。昨日の歩きの状況から判断し、山形発の出発時刻を7時41分から7時11分と1電車早いダイヤに変更して臨む。この季節、17時を過ぎると辺りが急に暗くなることも考慮したからである。また、路に迷って大幅に各駅立ち寄り予想時間が遅れることも想定したからである。



福島まで65km、県社八幡神社、赤湯駅への案内



赤湯駅

本日も次の通り、悪戦苦闘を余儀なくされたが天や神のご加護や地元の人にお世話になり、無事全ての駅舎に立ち寄りに成功する。

中川 (7:46) ～赤湯 (10:03) ～高畠 (12:35) ～置賜 (おいたま/15:28) ～米沢 (17:24)



伊達家のふる里資福寺跡、地産館

本日の旅のコメントは次の通り。

(1) 中川から赤湯までは、本日の営業キロでは8.3 kmと最も長かったが、天気にも恵まれ順調に歩くことができる。地元の人のお世話に加え、道路標識の看板をタイムリーに見つけることができ達成できた。それにしても、赤湯駅への看板を見てから赤湯駅までは随分遠く感じた。

(2) 赤湯から高島までも順調に歩くことができる。途中、地産館で手打ち蕎麦を頂く。高島駅に”太陽館”という洒落た温泉があるのにはビックリ。10年位前に歩いた「わたらせ渓谷鉄道の水沼駅」を思い出した。



まほろばの緑道、高島駅



高島駅前（河童の像）、太陽館（高島駅構内）

(3) 一方、高島駅から置賜駅は今回の行程の中で、営業キロが4.3 kmと最も短かったが、約3時間も要するという結果となる。今でも地図を確認して、何故このような路に迷った経路になったのか半信半疑である。恰も「狐や狸に化かされた」ような錯覚をした経路・時間であった。最近では天浜線で気賀から西気賀に向かう際、誤って気賀に戻るといった体験をしたことがある。この時は「何故自分が誤ったのか」を地図で解明できた。しかし、今回は誠に残念ながら判明できない状況だ。唯一自分を弁護するならば、雨の状況で注意力が散漫になっていて、右折すべきところを直進したのだろう。それとも、ナビの地図が一部不鮮明になっていたのかも知れない。何れにしても、ウォーキングの醍醐味を楽しむことができた。



ミステリーゾーン突入、高島駅への案内標識（米沢まで9 km）、疑心暗鬼で歩く



天王川（天王橋）、高畠駅への案内板、置賜駅（宗谷本線で見かけるような駅舎であった）

(4) 置賜駅から米沢駅までは順調に歩くことができる。それにしても、北村公園から米沢駅までが遠く感じた。また、複雑でもあった。最上川を渡って米沢駅への道筋は3本あることを学習できた。そのうち、最も王道でない道筋を歩いた関係で、「こんな細い路が米沢のメイン道路か」と勘違いをした。後で東横インのお散歩マップで判明し、「流石上杉氏の城下町だ」と安堵する。



米沢市青果物地方卸売市場、北村公園、最上川にかかる歩道橋

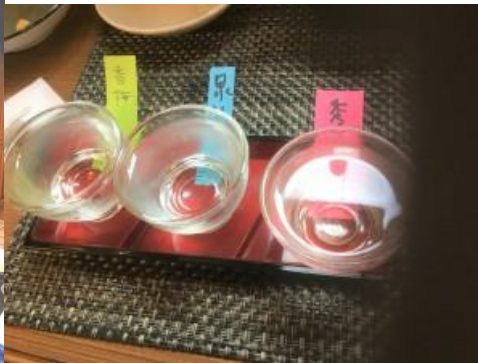


米沢駅、米坂線の車両（非電化）



米沢東横イン、母屋

(5) これで、当初予定した天童から米沢までの営業キロ 60.3 kmが、全ての駅舎立ち寄りにより繋がる。夜は、東横インの紹介で”母屋”という居酒屋で、地酒と郷土料理を堪能しながら、地元の方と祝杯も兼ね懇親を深める機会を得る。楽しいひと時であった。



母屋でのひと時

上記の駅舎立ち寄りの詳細は次の通り。

昨日の教訓を生かし、山形発の電車を30分早め、7時11分とする。昨日と同様、ホテルで朝食をとり、7時過ぎチェックアウトする。午前中はどんよりした天気から晴れとなり、午後から雨となる。今日も、昨日同様、かみのやま温泉駅で下車する高校生でほぼ満員の状況であった。今日は、一駅当たり6kmと長く、順調に歩いても1時間半～2時間は所要時間が見込まれた。7時41分、中川駅で下車し、昨日と反対側に向かって歩く。7時50分、JA山形おきたま前を通過。8時3分、福島、米沢、新庄、山形の道路標識前を通過。8時6分、米沢22km、福島65kmの標識前を通過。8時7分、薄日が差し込んで来る。8時14分、ビニールハウスがあるところで、福島まで65km地点を迎える。8時14分、国道13号線の看板に「南陽市市川樋」と記載した地点を通過。

8時25分、上杉の城下町米沢のエリアに入る。8時39分、犬からの挨拶がある。8時42分、JRを跨り、鉄道の左側となる。8時47分、左手に南陽スカイパークの標識がある。8時50分、赤湯温泉の標識がある。この境界で、ペンをロストする。8時53分。下り坂となり晴れとなる。8時58分、南陽市鳥神坂を通過。9時7分、高台から南陽市の街並みが見える。しかし、ここから赤湯駅遠し。9時31分、ゴリラの像があるカラオケ前を通過。9時41分、県社八幡神社、赤湯温泉市宇神社前を通過。9時43分、赤湯駅への看板を見つける。9時48分、蓮があるため池前で「水鳥保護のため、釣り禁止」の看板前を通過。10時3分、やっとドーム型の駅舎をもつ赤湯駅に到着。駅舎の天井には翼のような展示物がめにつく。また、物産店と合わせ「開湯九百余年/赤湯温泉」と記した青い旗が印象に残る。この駅を出るやポツリと水滴を感じる。リュックに雨具を着せるが、10時26分晴れとなり外す。10時37分、道路下を通過。10時51分、南陽市大橋（79歩）を通過。10時53分、工事中の橋現場前を通過。11時3分、福島56km、米沢13km地点に到達。11時6分、南陽市から高島町に入る。その先のJR線を跨がり、鉄道の右側となる。11時16分、古峯神社前を通過、11時17分、福島まで56km地点に到達。11時23分、和田川（最上川水系）を渡る。11時36分。米沢11km、福島54km地点に到達。11時46分、地産館にある手打十割そば屋で20分位休息。

12時24分、本町踏切を横切り、鉄道の左側となる。12時35分、まほろばの緑道を歩く。12時35分、太陽館（温泉）がある高島駅に到着。駅内には赤湯駅と同様、物産店もあった。駅前にはカップの像があった。この駅から置賜駅まで迷路に突入する。天気も雨マークとなり、途中から本降りとなる。踏切を越えて、鉄道の右側を歩こうとするが、昼休みを終えて会社に入ろうとする方（外人2名）にお伺いする。「置賜駅は踏切を渡らず、鉄道の左側を歩いた方が近道ですよ」との回答を頂く。それ故、引き返すため、5分位ロスタイムが生じる。12時59分、高島糠目踏切に戻り、地図に沿った路筋を歩くが。しかし、悪天候もあり、誤った路筋に入り込む。突き当りを真っ直ぐ歩いた先で、置賜駅への案内がある。また、この地点から米沢まで9kmの表示にはビックリ。大きく誤ったと察知する。不安になり、300m戻り、コンビニで置賜駅への道筋を聞く。「真っ直ぐ行った先を、右手に線路つたい歩きをした先にあります」との回答を得る。しかし、この交差点から右手に曲がる交差点は遠し。不安になり、誰かにお尋ねしたいとするが、雨の中通行人とは対面せず。食堂を営む店を見つけたので、お尋ねする。「まだまだ歩いた先に、右手に曲がる路があります。そこから300m位歩いた先にあります」とあり、多少安堵する。14時50分、米沢市となる。14時57分、東邦資材置場前を通過。14時59分、42歩ある天王川（天王橋）を渡る。その先を少し下った先に置賜駅（15時28分）がある。駅舎は北海道にあるように、列車を改造したような建物であった。駅前には地藏があった。

坂道を上り、幹線道路に出る。15時38分、JR線を跨がり鉄道の右側となる。16時2分、148歩ある新田橋（最上川）を渡る。河川敷には北海道で見られるようなロール（牧草を集めた物入）があった。16時14分、米沢市青果物地方卸市場前を通過。16時16分。中田町を通過。16時54分、道の駅米沢と記した標識前を通過。17時、北村公園前を通過。ここから米沢駅が近いと思ったが、遠かった。歩いて歩いて到着できず。もう近いと思って、米沢駅を聞いたところ、「まだまだあります。初めての信号を左折し、川を渡って下さい。そして真っ直ぐ進んだ突き当りに米沢駅があります」と。17時8分、78歩ある松川橋（最上川）を渡る。17時24分、米沢駅に到着。辺りは暗くなりかけていた。30分スタートを早めて大成功。この駅から数分歩いた先の東横イン（315号室）に向かう。17時37分到着。本日の営業キロは24.3km、万歩計は24,591歩であった。1万歩位万歩計少なし。そして、ホテルの紹介で母屋へ。

## 第5節 4日目：10月5日（土）：平泉散策 晴れ



米沢駅、米沢牛

2019年10月5日（土）、東北の旅の四日目は、山形新幹線と東北新幹線を乗り継いで、米沢、福島、そして一ノ関と移動する。米沢駅構内には米沢牛の像が展示されていた。また、四国4県のPRした熱い熱いコメントがあったので、次の5フレーズを転記。「南米のウユニ塩湖みたいな水鏡やね」、「よおに見て四国や」、「大仏もええけど、小僧がええ」、「京都かと思うたやろ」、「イタリアにも似たかが、あるにやあ」。





四国のPR、米沢駅（つばさ 132号）、福島駅



福島駅、一ノ瀬駅（やまびこ 45号）

福島駅から米沢駅までは山また山で幾つかの駅舎があったが、道筋は全く車窓からは見えず。将来この沿線も鉄道つたい歩きをしたい関係で、福島駅の駅員さんに聞いたところ、「車が一切通らない獣道がほぼ鉄道に沿ってあります。しかし、比較的賑やかな板谷界限に最近熊が出没したニュースを聞きました。米沢から福島までの鉄道つたい歩きは危険なので止めた方がいいですよ」のコメントを頂く。このコメントをお伺いし、8年前に歩いた南海高野山線（高野下から高野山の行程）と同じようなコメントを頂いたことを思い出した。鉄道路線の状況によっては、山陰本線の保津峡駅のように溪谷で、「[駅舎立ち寄りによる鉄道つたい歩き](#)」ができない区間があるからだろう。



中尊寺ガイド、金色堂拝観料



平泉駅、中尊寺入口、弁慶堂



中尊寺本堂



本堂、金色堂への参道



経蔵前

一ノ関から在来線に乗り継いで平泉へ。そして、観光バスに乗り継いで中尊寺へ。家内とは一ノ関駅で合流する。平泉中尊寺は2015年5月、盛岡から仙台を鉄道つたい歩きする際、参拝したことがある。懐かしい限りだ。今回は平泉駅から便利なバス（200円均一）を活用し中尊寺まで移動。弁慶堂、本堂、金色堂、経蔵などを散策。金色堂・経蔵は拝観料を要したが、ビデオなどを通じて、藤原三代の歴史を改めて学習させて頂く。特に、7年を要した金色堂修復作業の細かな技術力にはビックリ。いい観光を家内共々させて頂いた。天や神に感謝あるのみ。



芭蕉の奥の細道、釈迦堂前



中尊寺入口、バス停前

そして、帰りも便利なバスで平泉駅へ。バスに乗ったお陰で平泉のメッカも勉強できる。改めて、百年続いた藤原三代の凄さを脳裏に焼き付けるひと時であった。



平泉駅前

平泉からは数分の待ち合わせで、予定の平泉から一ノ関への在来線の電車に間に合う。そして、蔵ホテル一関にある蔵大黒で祝杯をあげる。また、今日は米沢からの移動時間にも余裕があったので、カタールドーハの世界陸上をテレビ観戦する機会を得る。その

中で、20 km競歩で山下利和氏が金メダルに輝く瞬間をゲットでき、最高の日となった。



飲み比べで祝杯

♪ ( ^ ω ^ ) . . . . . ♪ . . . . .

2019年10月15日（火）、先日山形の”山力”でお会いした泥舟氏から次のような心温まるメッセージを頂く。感謝感激。

今どちらに？山形であってから、泥舟は盛岡に2泊、苫小牧に帰宅。台風19号の被害は？？気をつけて旅を続けて下さい。

カッシー館拝見。平泉は懐かしい。大学3年4年の時、計30日平泉発掘調査に参加。発掘とは土方仕事なり。炎天下金色堂前の広場（池跡）発掘、地下2mから酒器に使った土師器（はじき）が続々発掘。成果はあったが、つらかった。青春の夢の跡です。

第6節 5日目：10月6日（日）：気仙沼散策 晴れ／曇り



蔵ホテル一関（栗駒の間にて朝食）～食材豊富でした（2度目の訪問）



蔵大黒（ホテル内のレストラン）、一ノ関駅



一ノ関駅（気仙沼行き）、東北本線と大船渡線、大船渡線の車両

2019年10月6日（日）、曇り空の中、旅の5日目は、2011年3月に起きた東日本大震災の復興状況を確認するため、大船渡線に乗って”気仙沼湾散策”に向かう。この界限への足の踏み入れは、家内共々生まれて初めてであったのでワクワクドキドキ。気仙沼駅に着くや観光案内で見どころなどをお伺いする。その結果、1時間の貸切タクシーをご紹介頂く。吾妻さんというドライバーの方に、気仙沼に関し、下記にあるような“色々懇切丁寧な説明”を受けながら案内して頂く。感謝感激。



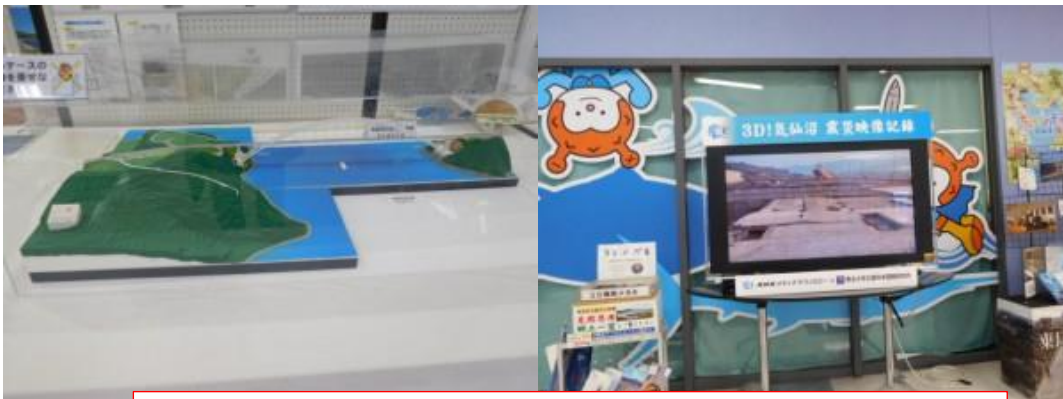
仙山線と大船渡線



気仙沼湾、気仙沼駅



大船渡線の沿線風景



気仙沼大島大橋の模型、震災当時のビデオ～海の市の会場（2F）

①高台からの気仙沼一望できるスポットでは、次のような説明があり。「震災が起きた日は一面火の海でした。恰も地獄の絵巻でも見るような光景でした。石油コンビナートが破裂したのが主な原因であるとのこと。気仙沼は火の海になりましたが、大島のお蔭で津波は少し緩和されました。高台から見える大島は後で行きます。」





気仙沼を背景にして

②復興に当たっては、瓦礫の撤去に2年、2～3m位の地上げに3年、そして土地を固めるのに2年を要しました。そして、地盤が固まったので現在住宅計画が進んでいます。土は主として近くの山を削って持ち込んだと聞いています。今回の震災を機に素晴らしい街並みになることを期待しています。

③海岸に沿って2m位の塀ができつつあります。幾らリスク回避とはいえ、美観への悪影響と圧迫感を生じることから反対する人もいます。

④海岸線の近くは住宅を建てられません。従って、漁業を営む人は、海岸と高台へのアクセスが余儀なくされます。

⑤気仙沼から現在普通になっている鉄道区間は、廃線となり、鉄道からバスに切り替えて対応しています。それ故、随所で廃線跡が残っており、寂しい限りです。



気仙沼線の JR バス（柳津行）、気仙沼駅のダイヤ

⑥風光明媚な気仙沼は、鮪の水揚げ、フカヒレの生産など日本一が多いです。今年是不作であるが秋刀魚の水揚げも。また、安全な港として、台風シーズンには船が回避のためやって来ます。

⑦気仙沼大島大橋を徒歩で渡って大島に行って下さい。車は橋を渡った先でお待ちしています。



気仙沼大島大橋にて



気仙沼大島大橋を背景にして（大島から）

⑧昼食はタクシーの終点である「気仙沼海の市」でとって下さい。



まぐろ屋にて



吾妻さんのタクシー、昼の昼食会場

貸切タクシーのお蔭で、効率的な観光ができる。また、海の市での鮪丼は贅沢な具で最高であった。加え、ビデを通じて、改めて自然の計り知れない脅威を教えて頂いた。この観光センターにも震災当時海面の位置が記されていた。信じられない程の高さであ

った。お蔭様で家内共々、充実した一日を送らせて頂く。吾妻さん有難うございました。  
この場をお借りして御礼申し上げます。



海の市前バス停、路線バス



一ノ関駅と仙台駅



ホテル界隈の五橋横丁で祝杯

第7節 6日目：10月7日（月）：松島散策 曇り



仙台駅、仙台の鉄道網



松島湾一周のコース

2019年10月7日（月）、東北の旅の最終日は、日本三景松島の景観な風景を堪能する。ホテルで朝食をとり、8時過ぎの仙山線で松島海岸に移動する。9時前に松島海岸駅に到着。本日はこの駅から5分位歩いた先にある松島海岸にて、10時発の観光船に乗り、「松島湾一周」を楽しむ。乗船前に40分位時間があったので、この時間を利用して、瑞巖寺五大堂などを観光する。この寺の帰り路の店先に、しゃべる犬があり、「元気ですか、今日は、はっはっは」などしゃべると真似して返答があり、一時ではあるがユーモアな時間を過ごすことができる。



松島海岸駅



渡月橋、五大堂、マネする犬のおもちゃ

50分位の旅であったが、松島に浮かぶ仁王島、千貫島、鐘島、陰田島など沢山の島を解説受けながら、松島湾を一周する。正に、「百聞は一見に如かず」の格言を思い出した。家内共々、感謝感激する時間であった。



松島湾



鐘島他



遊覧船、松島海岸にて



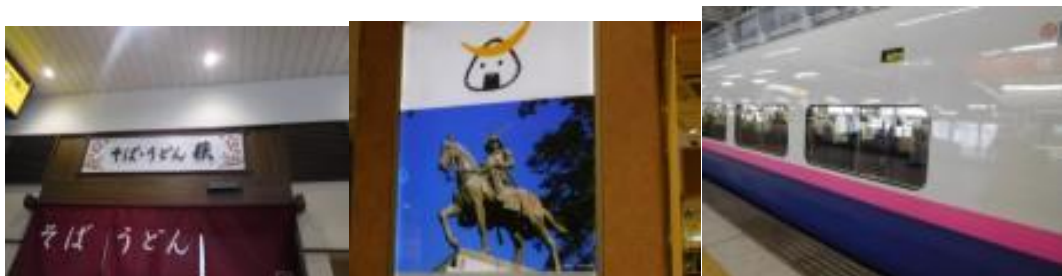
松島海岸の乗船場にて

松島と言えば、2015年5月5日（火）、本州踏破の仕上げ（青森～下関）で、小牛田（こごた）から塩釜まで歩く際、松島海岸を通過したのが昨日のように思い出す。この時は、腰が痛くなり、杖をつきながら必至で松島の海岸を歩いた。そして、何とか塩釜に到着した。しかし、仙台駅で立ち上がれず、仙台駅の駅員さんにお世話になり車椅子でタクシー乗り場まで誘導頂き、再度昨日泊まった東横インまで手配頂いた苦い苦い体験を。



お土産屋、瑞巖寺前、松島海岸駅前

しかし、今日は4年前とは異なり、最高の観光ができ、東北の旅を締めることができる。天や神、地元の人に感謝あるのみ。



立食い蕎麦屋、伊達政宗、やまびこ 142号～仙台駅



松島湾一周乗船券